

授業概要

戦後の冷戦下でアメリカは、西側世界の盟主として、社会主義体制への軍事的・経済的な対抗をおこなってきました。たいてい、西ヨーロッパは、E E C / E C / E U と地域統合を深化させてきました。

とくに、アメリカは、対ソ軍事的優位を維持するために軍事技術開発に専念し、日独がアメリカを経済的に支えました。

1991年にソ連邦が崩壊し、冷戦が終結するとアメリカは、ドル体制の維持のために、資産バブルなどによる経済成長を目指しました。ヨーロッパでは、ユーロを導入してアメリカに対抗しています。

2017年1月のトランプ政権の登場でアメリカ経済も大きく変容しつつあります。この変容を踏まえて、戦後のドイツ経済について日本との比較で詳しく検討します。

授業計画

第1回	講義の概要
第2回	戦後のアメリカの経済と市場原理主義
第3回	2000年代初頭の欧米の資産バブル
第4回	リーマン・ショックによる世界経済危機の勃発
第5回	グローバル化の揺り戻しでトランプ政権の誕生
第6回	トランプ登場は、世界経済の政治的トリレンマ
第7回	トランプ政権でアメリカはどうなるのだろうか
第8回	E U の統合、どうしてユーロを導入できたのか
第9回	どうしてドイツは脱原発に踏み切れたのか
第10回	ドイツの教育制度、自分の意見を持つ教育
第11回	不死鳥のようによみがえった戦後のドイツ経済
第12回	ドイツの社会的市場経済と市場原理主義の違い
第13回	ドイツは戦争責任をしっかりとらしているか
第14回	ヨーロッパの中のドイツとヨーロッパのドイツ
第15回	日本とドイツの経済比較してみると見えるもの
第16回	期末試験

到達目標

欧米の戦後の経済発展を理解したうえで、ドル体制の変遷、ユーロ導入のプロセス、ユーロ対ドルの対抗について理解してもらうことを到達目標とします。

とくにトランプ政権誕生の歴史的評価を理解してください。

さらに、戦後のドイツ経済の特徴をさまざまな側面から明らかにし、日本の進むべき道を考えてもらいます。

履修上の注意

現実の欧米経済について講義しますので、新聞などをよく読んでください。30分以上の遅刻は欠席とし、30分以内の遅刻二回で欠席一回とします。

予習復習

講義の予習・復習をしてください。そうしないと、講義の内容がわからなくなることもありますので、注意してください。

評価方法

中間試験(30%)と期末試験(70%)によって総合的に評価します。

テキスト

相沢幸悦「よみがえる日本、帝国化するドイツ」水曜社、2015年